

フィリピン台風 被災地福祉支援 ニュース No. 2

社会福祉法人
全国社会福祉協議会(国際部)
〒100-8980
東京都千代田区霞が関3-3-2
新霞が関ビル
TEL: 03-3592-1390
FAX: 03-3581-7854

2014年10月22日

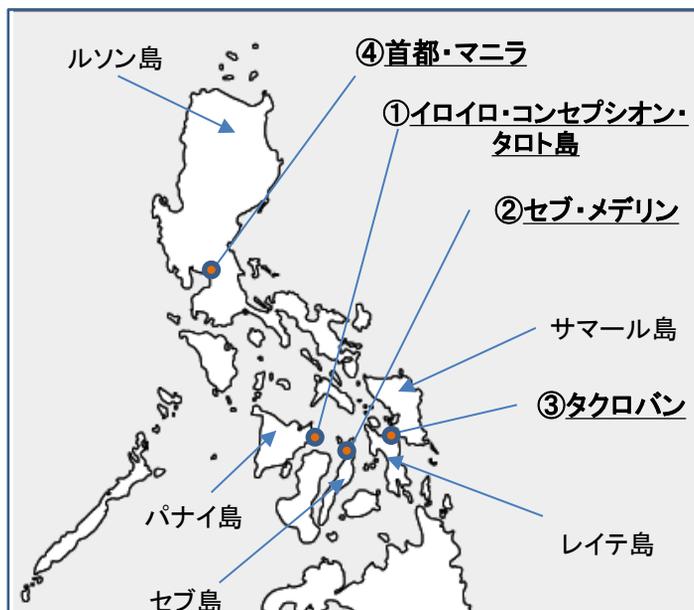
被災地活動団体への第一次助成を実施

第1回フィリピン台風福祉支援委員会(6月18日開催)において助成実施を決定したフィリピンの3団体について、調整の結果、下記のとおり第一次助成を実施しました。今後も、この3団体のほか、他団体も含めた助成の実施・拡充をしてまいります。

助成先	助成内容	助成金額(ペソ)	助成金額(円換算)
愛徳姉妹会	地域生活支援プロジェクトのベースとなる多目的施設の建設費	2,124,999.65ペソ	約5,100,000円
サレジオ会	災害準備教育センターの建設費	4,298,714.86ペソ	約10,320,000円
セントロ・エスコラル大学	被災地大学で社会福祉を学ぶ学生を対象とした奨学金支給	1,188,000ペソ	約2,860,000円
合計	(助成金は申請額を基に決定。ペソに換金して送金)	7,611,714.51ペソ	約18,280,000円

第2回現地訪問調査を実施

全国社会福祉協議会(全社協)では、8月7日から14日にかけて、全社協役職員をフィリピンに派遣し、すでに第1回委員会で助成決定をした3団体の活動地のほか、被災地で支援活動を行っている関係団体等への訪問調査を実施しました。現地の被災・復興状況を把握するとともに、各団体の支援プロジェクトの責任者や担当者などから支援状況について聞き取りを行い、今後のさらなる支援の拡充に向けた情報収集を行いました。



■フィリピン現地調査の主な訪問先

- ①イロイロ・コンセプション・タロト島
愛徳姉妹会の被災地活動地
- ②セブ・メデリン
サレジオ会の被災地活動地
- ③タクロバン
セントロ・エスコラル大学が支援するレイテ・ノーマル大学の所在地
- ④マニラ
今後のさらなる支援の拡充に向けて、被災地で活動する民間団体への聞き取り調査を実施(聞き取り調査はマニラ以外にも各訪問先で実施)

助成先3団体の活動地への訪問調査

①愛徳姉妹会（アジア研修30期生・チャリスマさん所属）

愛徳姉妹会では、被災地のなかでも、政府や公的機関の支援が行き届きにくいといわれるへき地や島しょ部などで、主に住民の生業（漁業・農業）のための生活支援をすすめています。今回の助成が活用されているタロト島は、イロイロ国際空港から車で3時間ほど離れた町・コンセプションの港から、小舟で約40分の場所にあり、同会のシスターとスタッフが、テントでの生活を続けながら支援活動を行っています。

同島に建設されるセンターは、太陽光発電や水道設備などを付設し、災害時の避難所としての活用も検討されています。また、島民の意見を聞きながら、普段は生活支援を行ったり保育所として利用することも計画されています。

8月9日に実施した訪問調査の際には、島を挙げての歓迎を受け、センターの起工式が行われました。同島には頑強な建物がなく、ライフラインの確保が難しい島の状況から、次の災害に備えセンターを建設する必要性を確認することができました。

<愛徳姉妹会の活動地への訪問調査のようす>



島への上陸時に多くの島民から歓迎を受けました



起工式では犠牲者への黙とうが捧げられました

②サレジオ会（アジア研修17期生・カッチさん他の紹介）

セブにあるサレジオ会では、台風により大きな被害を受けたものの、行政の支援が行き届きにくく、復興が遅れているメデリン地区において、複数の小学校の敷地内に防災センターの設置をすすめています。今回の助成は、このうち1か所のセンターの建設のために活用されています。

8月10日に行った訪問調査では、セブ中心地から車で3時間ほど離れた現地に向かいました。センターを建設している各小学校では、プロジェクト責任者のユージン神父から、台風で校舎が全壊し、その再建が十分にすすまない現状や、雨が降ると教室内に雨水が流れ込み、授業が行えないなどの支障が出ていることなどについて説明を受けました。

訪問調査には、地元で支援活動に取り組んでいるセブ・ノーマル大学の担当教授も同行し、同大学が取り組む現地の調査・教育活動についての説明がありました。防災センターの設置後には、サレジオ会とセブ・ノーマル大学が協働しながら、日常の活動として教育活動や就労支援などの活動の場として活用することが検討されています。

<サレジオ会の活動地への訪問調査のようす>



(左)防災センターの建設予定地を説明するユージン神父 (右)資材を再利用し校舎の再建が行われていますが、多くはまだ使用できません

③セントロ・エスコラル大学 (アジア研修13期生・イメルダさん所属)

マニラにあるセントロ・エスコラル大学では、フィリピン政府の要請により被災地の大学への支援をしています。そのひとつに、レイテ島タクロバンにあるレイテ・ノーマル大学でソーシャルワークを学ぶ学生への奨学金事業を行っています。支援の対象とするのは、今後、ソーシャルワーカーとして被災地域で活動する23人の4年生です。いずれも貧しい家庭にあり、被災によって家屋を失ったり、世帯収入がさらに減ってしまうなど、現在も厳しい生活環境にあります。

8月11日から12日かけて実施した訪問調査では、6人の学生の自宅を訪れ、生活のようすなどを伺いました。住まいは、サレジオ会をはじめ民間団体の支援によって設置された家屋、親族の協力を得て再建した家屋、地方政府が設置した仮設住宅などそれぞれでした。お話を伺ったところ、いずれの家庭でも家財や職を失い、生活がさらに厳しくなったことにふれていました。また、そのなかで奨学金の支給により、学業が継続できる感謝の気持ちを表されていました。レイテ・ノーマル大学を訪問した際には、奨学生たちが、ソーシャルワーカーとなって家族や地域を支えていく意志を語ってくれました。

タクロバンは、他の被災地に比ベテントや建物のがれきが多く、町全体の復興の遅れが見られました。また、親しくしていた人が犠牲となり、自身もなんとか生きながらえた体験から、心のケアが必要な人も多くいます。現在、セントロ・エスコラル大学では、何人かの学生が数か月間にわたりタクロバンに滞在し、調査やボランティア活動に取り組んでいます。今後も継続した被災地での活動が予定されているということです。

<セントロ・エスコラル大学の活動地への訪問調査のようす>



(左)レイテ・ノーマル大学の奨学生たち(右)被災から9か月のタクロバンの空港周辺のようす。建物のがれきやテントが多く見られました

その他の活動団体への聞き取り調査

今回の訪問調査では、全社協のアジア社会福祉従事者研修・修了生で、フィリピン台風支援事業の現地連絡係（リエゾン）を務めているイメルダさん（13期生）、カッチさん（17期生）に、助成先の3団体をはじめ、各団体への事前調整や訪問旅程のコーディネーター、訪問調査への同行など、全面的に協力をいただきました。

彼女たちから得た情報などをもとに、すでに助成を行っている3団体以外に、いくつかの団体の支援活動についても、プロジェクトの責任者や担当者から話を伺ってきました。

今後、全社協に助成申請がなされた場合には、フィリピン台風福祉支援委員会において助成について検討していく予定です。



イメルダさん(13期生)



カッチさん(17期生)

④各団体で支援を計画・実施している主な活動内容

- 今後の災害に備えて避難所（センター）を建設し、日常的には教育・福祉支援を展開する。
- 海藻を栽培・加工・販売する活動をとおして、住民の就労支援・自立支援を図る。
- 地域のリーダーや専門職等を対象に、災害時のマネジメントや心のケアに関する研修を行う。
- 地域のリーダーや専門職等を対象に、被災児の里親を希望する人に求められる倫理・知識等を伝えるための研修を行う。
- 小学校の図書館を再建し、そこで学校に通えない子どものための教育プログラムを実施する。

<各団体の活動責任者・担当者への聞き取り調査のようす>



活動団体のRGSへの調査(8月8日・マニラ)



KSEMとACCAPの担当者への調査(8月13日・マニラ)